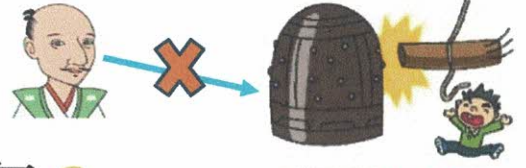


# 木知原の今昔!

27号: 5・11・24



寺洞寺院

## 寺洞・下家?・塀の下 どこ! 何?



### 寺洞

という言葉を目にしなくなって久しい。地名であることすら知らない方も...

寺洞とは、写真に示した洞地に戦国の頃**複数の寺院**が建っていたが、信仰勢力を嫌う信長軍に**焼き討ち**され廃寺になったと伝えられている寺院跡、それが寺洞である。

史跡は残っていないがその存在について書物や聞き伝えからまとめてみた。

#### 書物には

- 寺院の数は「3ヶ寺~30ヶ寺」(7~8ヶ寺が多)
- 「鐘の音賑やかに村中に響き渡る」
- 「信仰勢力を恐れた信長軍に焼き討ちにあった」
- 聞き伝え
- 「上の段の東方に**オボクジ**(僧侶)が**一人の寺**がありその寺から出火して周囲の家が焼けた。
- 父がよく「**キシロブクシ**へ...」と言って上之段へ

### 下家

とは**シタヤ**と読み付属する建物や小屋等をさす言葉である。

- 寺洞の前(南)の一段低い土地を**シタケ**と呼んでいたが下家のことではと思う。(名知義明氏宅裏辺り一帯を指す)
- 呼名から言って寺院の門前町的な場所で寺に関連の建物や居宅が集まっていたと思われる。(ワクワクは私だけ!)

寺洞の地は旧集落の東端にあたり、眼下の眺めは今でも門洞から根尾川一帯が一望できる**景勝の地**であり、『この地に寺院があっても不思議ではない』と思える。また木知原は外山郷では大村であるのに寺院がないのは**七不思議一つ?** 規模はさておき寺院があったことは確かと思う。

### 塀の下

なる名称を知る人も少ない。名知俊和氏宅辺りから用水取入れ口辺りまでの一段低い土地を「塀の下」と言う。

段上に築かれていた**砦**が寺洞を焼き討ちした信長軍の北進を阻んだと伝えられている。当時の村には砦を築く財力やその必要も無いので寺院が防御用に築いたものと推測される。きっと僧兵もいたのでしょう。

「寺洞・下家・塀の下」は信長の敵対勢力となるほどの力を持った寺院が木知原にあったことを裏付ける証と思うが如何でしょう!

信長は、**来振寺**→**山口春日大社**→**木知原寺洞**と美濃西部を総なめにして上洛を図ったと思う。



- 信長は伊賀国を切り取り撫で斬りにして諸国に落のびた者まで捕えに捕えて成敗している。寺洞の焼き討ちは物の数ではなかったのでしょうか。日当の「坊主落し」も“時すでに遅し”であったが一連の件?
- 一方、**家康**は信長に与していたが伊賀から保護を求めた者を扶助したため後の本能寺の変から逃れる時に恩返しとばかり伊賀の村人が難路を送っている。(これが戦国の主従関係: **どうする家康から**)